



「学校らしさ」を取り戻そう

第30回教研集会 保護者と繋がり

「学校らしさ」を取り戻そう!!」を掲げ、第30回大阪府教育研究集会が10月16日に行われ70人が参加しました。

全体会のリレートークでは、学校現場の実態が報告されました。小学校教員が「オンライン」では、「黒板が見えない」や子どもたちがチャット機能を使い「私語」をするなど授業が困難であり、少人数学級こそ必要と報告。登校制限が終わった5月下旬、7時間授業になった中学校がありました。

特別支援学級の子ども達にとって生活のリズムが崩れることが大変な負担になっており、「何があつても止まらない学校」を保護者も願っています。

養護教諭はコロナ感染拡大の中で衛生管理、そして子どもの感染拡大で対応に追われました。大規模なPCR検査が求められています。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

宮城委員長は、「学力向上」という競争力と「規範意識」という同調圧力で不登校を増やし、デジタルドリルなど民営化を進める大阪府を厳しく批判。「教育はサービス」脱却を(鈴木大裕)、「学校は公共財」(山極壽一)、「才能は温室で開花する」(内田樹)の指摘にふれ、「学校らしさ」を取り戻そうと呼びかけました。

教育振興基本計画(素案)

教育内容への「不当な支配」

大阪市教育振興基本計画(22~25年度)素案のパブリックコメントが11月1日まで行われました。

教育振興基本計画の「主たる記載事項は、学校の耐震化、学校の統廃合、少人数学級の推進、総合

的な放課後対策…算や条例等…事項についての目標や根本となる方針…(文科省通知)であるにも関わらず、市長が教育内容にまで「不当な支配」を行う仕組みとなっています。素案では「特に重

点的に取り組むもの」として、◎いじめ・不登校への対応、◎ICTを活用した教育の推進、◎データ等の根拠に基づく施策の推進(教育ビッグデータの活用等)などを上げましたが、朝日新聞10

月1日付は、「読解力育む授業 大阪市導入 24年度にも全市立小中へ」と報じました。

「実用的な文章に触れるなど…科学技術と社会といったトピック、確率・統計など数理的データを含む文章等、文理融合的な内容を含む『総合的読解力育成カリキュラム』(仮称)を開発し、全ての小学校(3年生以

上)・中学校で毎週1時間以上授業として総合的読解力育成の時間(『小中学生からのリベラル・アーツ教育(仮称)』を実施する)としていいます。読解力の基本は読書力であり、本を読み考えるというこれまでの取り組みが軽視され、特定の教育内容、教育方法が押し付けられないよう批判的検討が求められています。

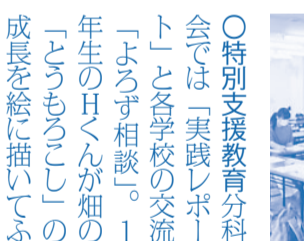
特別支援教育分科会では「実践レポート」と各学校の交流「よろず相談」。1年生のHくんが畑の「どうもろこし」の成長を絵に描いてふりかえる授業を通して、周囲のとうえ方や絵の内容が成長・発達した様子をいきいきと報告。「よろず相談」では「子ども『できる』できないの揺れをどう受け止めるか」をテーマに感想や学校での子どもたちの様子を交流「子どもたちの力のできるように見守ることが大切だと改めて感じました」などの感想が寄せられました。

業務システムは、全ての事務職員が不安に思っている「共同学校事務室」について、検証結果や市教委との折衝内容も含めて、参加者で共有しました。業務システムについては、様々な意見が出ました。「マニュアルを見やすくしてほしい。ほとんどが随意契約の校園契約に、入札のやり方を当てはめるのは無理がある。集約物品の予定価格がスキップで見られるけどいいの?教育扶助は微収金相当額を充当してほしい。就学援助費の紙申請を減らして等交流しました。

「来てよかったな」と思える学校は、温かな学校だろなと思えました。○コロナ不安で学校に来る子もいれば来ない子もいて、対応におわれ「しんどいな…」と思っていたのですが、今日のお話をきいて、「他の学校もそうなんだな」と悩みが共有できて良かったです。○多くの資料をもとにした講演はよくわかりました。リレートークではオンライン授業の様子が分かりました。



「今こそ作文で子ども達の声を」の分科会では、子ども達と教師、保護者が作文を通して繋がっている学級の様子の報告でした。先生は子ども達の書きたい気持ちを大切にしながら、学級により作文や詩を載せ、学級の様子を通信に載せ、保護者と思いを共有していました。学校でどのように作文を書かしているのかや、学級によりを出しているかなど、参加者同士での交流も出来ました。自分の学級でも、子どもの思いを大切にしながら、書きたいと思えるような作文指導をしていきたいと思っていました。



大阪府教育研究集会では、青年もリレートークに参加しました。中学校現場からは分散登校後に起こった授業のしわ寄せや日々の超過勤務の実態、小学校現場からはオンライン学習の実態を話

大阪府教育研究集会では、青年もリレートークに参加しました。中学校現場からは分散登校後に起こった授業のしわ寄せや日々の超過勤務の実態、小学校現場からはオンライン学習の実態を話

「来たよかったな」と思える学校は、温かな学校だろなと思えました。○コロナ不安で学校に来る子もいれば来ない子もいて、対応におわれ「しんどいな…」と思っていたのですが、今日のお話をきいて、「他の学校もそうなんだな」と悩みが共有できて良かったです。○多くの資料をもとにした講演はよくわかりました。リレートークではオンライン授業の様子が分かりました。

められています。感染による小学校の休校で、中学校の給食が突然中止になりヒートレスカレーの対応。紙皿の準備なども必要となりました。

延期された行事が10月から集中し事務も大変。業務システムや共同学校事務室の問題が山積みです。

最後に、中央区の小中学生・中学生の保護者が発言しました。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

宮城委員長は、「学力向上」という競争力と「規範意識」という同調圧力で不登校を増やし、デジタルドリルなど民営化を進める大阪府を厳しく批判。「教育はサービス」脱却を(鈴木大裕)、「学校は公共財」(山極壽一)、「才能は温室で開花する」(内田樹)の指摘にふれ、「学校らしさ」を取り戻そうと呼びかけました。

業務システムは、全ての事務職員が不安に思っている「共同学校事務室」について、検証結果や市教委との折衝内容も含めて、参加者で共有しました。業務システムについては、様々な意見が出ました。「マニュアルを見やすくしてほしい。ほとんどが随意契約の校園契約に、入札のやり方を当てはめるのは無理がある。集約物品の予定価格がスキップで見られるけどいいの?教育扶助は微収金相当額を充当してほしい。就学援助費の紙申請を減らして等交流しました。

「来たよかったな」と思える学校は、温かな学校だろなと思えました。○コロナ不安で学校に来る子もいれば来ない子もいて、対応におわれ「しんどいな…」と思っていたのですが、今日のお話をきいて、「他の学校もそうなんだな」と悩みが共有できて良かったです。○多くの資料をもとにした講演はよくわかりました。リレートークではオンライン授業の様子が分かりました。

「来たよかったな」と思える学校は、温かな学校だろなと思えました。○コロナ不安で学校に来る子もいれば来ない子もいて、対応におわれ「しんどいな…」と思っていたのですが、今日のお話をきいて、「他の学校もそうなんだな」と悩みが共有できて良かったです。○多くの資料をもとにした講演はよくわかりました。リレートークではオンライン授業の様子が分かりました。

「学校らしさ」を取り戻そう!!」を掲げ、第30回大阪府教育研究集会が10月16日に行われ70人が参加しました。

全体会のリレートークでは、学校現場の実態が報告されました。小学校教員が「オンライン」では、「黒板が見えない」や子どもたちがチャット機能を使い「私語」をするなど授業が困難であり、少人数学級こそ必要と報告。登校制限が終わった5月下旬、7時間授業になった中学校がありました。

特別支援学級の子ども達にとって生活のリズムが崩れることが大変な負担になっており、「何があつても止まらない学校」を保護者も願っています。

養護教諭はコロナ感染拡大の中で衛生管理、そして子どもの感染拡大で対応に追われました。大規模なPCR検査が求められています。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

宮城委員長は、「学力向上」という競争力と「規範意識」という同調圧力で不登校を増やし、デジタルドリルなど民営化を進める大阪府を厳しく批判。「教育はサービス」脱却を(鈴木大裕)、「学校は公共財」(山極壽一)、「才能は温室で開花する」(内田樹)の指摘にふれ、「学校らしさ」を取り戻そうと呼びかけました。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

「学校らしさ」を取り戻そう!!」を掲げ、第30回大阪府教育研究集会が10月16日に行われ70人が参加しました。

全体会のリレートークでは、学校現場の実態が報告されました。小学校教員が「オンライン」では、「黒板が見えない」や子どもたちがチャット機能を使い「私語」をするなど授業が困難であり、少人数学級こそ必要と報告。登校制限が終わった5月下旬、7時間授業になった中学校がありました。

特別支援学級の子ども達にとって生活のリズムが崩れることが大変な負担になっており、「何があつても止まらない学校」を保護者も願っています。

養護教諭はコロナ感染拡大の中で衛生管理、そして子どもの感染拡大で対応に追われました。大規模なPCR検査が求められています。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

宮城委員長は、「学力向上」という競争力と「規範意識」という同調圧力で不登校を増やし、デジタルドリルなど民営化を進める大阪府を厳しく批判。「教育はサービス」脱却を(鈴木大裕)、「学校は公共財」(山極壽一)、「才能は温室で開花する」(内田樹)の指摘にふれ、「学校らしさ」を取り戻そうと呼びかけました。

多くの先生が目まぐるしく変化の激しい時代に、子ども達の成長を喜んだりしてあげてほしい。保護者の側から見えづらく、だからこそ、先生と保護者、そして地域が風通しよく繋がることがこれまでに上にあるのだと思えます。

実際に今の大阪市の教育行政にはアカンとこもたくさんある。今中学校の娘の友達で学校に行けていない子も何人も顔が浮かびます。目の前は子どもたちの成長はコロナ禍でも、アカン教育行政の元でも待ってはくれません。「教育関係者」じゃない人なんてどこにもいないです。一緒に頑張りましょう。

たんぽぽだより

11月

大阪府教育研究集会では、青年もリレートークに参加しました。中学校現場からは分散登校後に起こった授業のしわ寄せや日々の超過勤務の実態、小学校現場からはオンライン学習の実態を話



養教部 オンライン

Zoomを使ったオンライン交流会。6名の参加があり、少数職種であるが故の悩みを共有する時間となりました。新卒2年目の校務分掌が養護教諭の職務の範囲を超えていて参加者一同絶句。若い養護教諭にあれこれ押し付ける管理職、それを普通と捉える職場の雰囲気やるせなさを感ずる。コロナ禍で余裕のなくなった日常に他者を思いやる気持ちが薄れてしまっている学校現場の厳しさが痛いほど伝わりました。その他歯科保健行事の問題点など養護教諭として日頃感じていることを話し合うことができた、横のつながりの大切さを実感できた有意義な交流会でした。

(教研集会の感想) ○保護者の方にも率直な意見を聞くことができたのは、とても貴重な時間になりました。少しずつ、学校らしさが戻ってきました。温かな、人としてのぬくもりを感じられる学校をめざしたいです。やんちゃな子ども、おとなしい子ども「来てよかったな」と思える学校は、温かな学校だろなと思えました。